

災害情報伝達に関するセミナー

防災情報 発信・伝達手段の改善プラン

CMIDを活用した防災情報の一斉送信
＜準備中＞

2019年5月29日
中国新聞社
メディア開発室

防災情報 発信・伝達手段の改善プラン～CMIDを活用した防災情報の一斉送信 ＜ワンストップ、ワンオペレーション入力＞



防災情報の発信伝達＝各自治体で複数手段の整備が進む



【課題】マンパワー不足や輻輳する情報への対応・発信



ワンストップ、ワンオペで入力・発信できる仕組みづくり

中国新聞社、共同通信、CMID[※]で検討

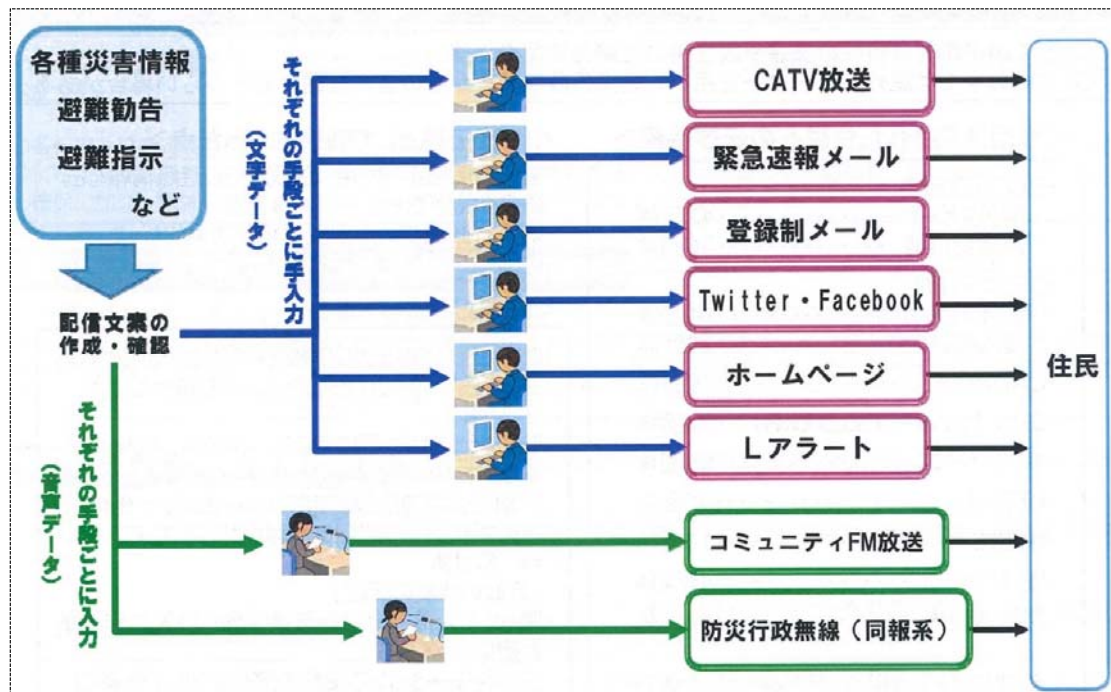
専門業者による入力で迅速・正確に情報伝達

※CMID(一般社団法人危機管理情報共有基盤)

- ・共同通信デジタルとレスキューナウが設立発起人となり、2016年4月設立。本社：東京都港区
- ・多様な方法で発信される危機管理情報が利用されやすくするために、データの加工・集約・仕様統一を行う基盤の構築と運用を担う
- ・加工等されたデータは、多くの人を使うサービスやシステムに利用される

防災情報 発信伝達手段の改善イメージ

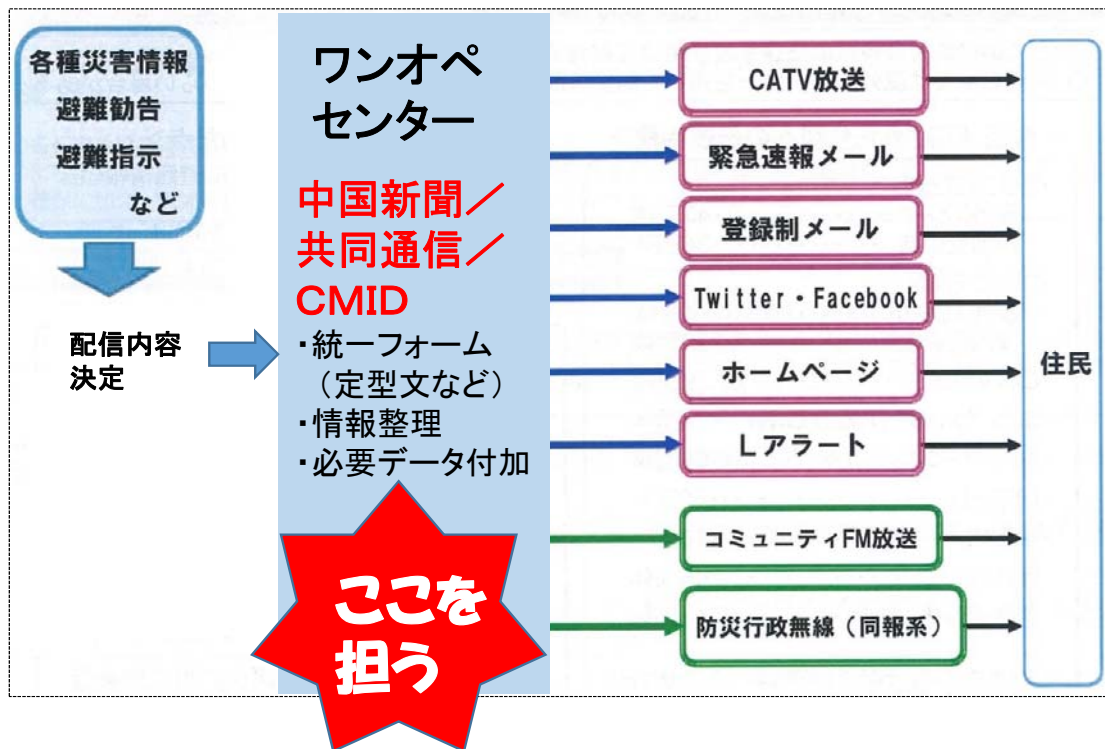
【現状】(消防庁資料から)



自治体ごとに複数の情報伝達手段の整備が進む一方で課題も

- ・情報伝達手段ごとに入力
- ・入力作業にあたる職員の不足
- ・機器が十分に使いこなせない
- ・古い情報の放置

【改善後】

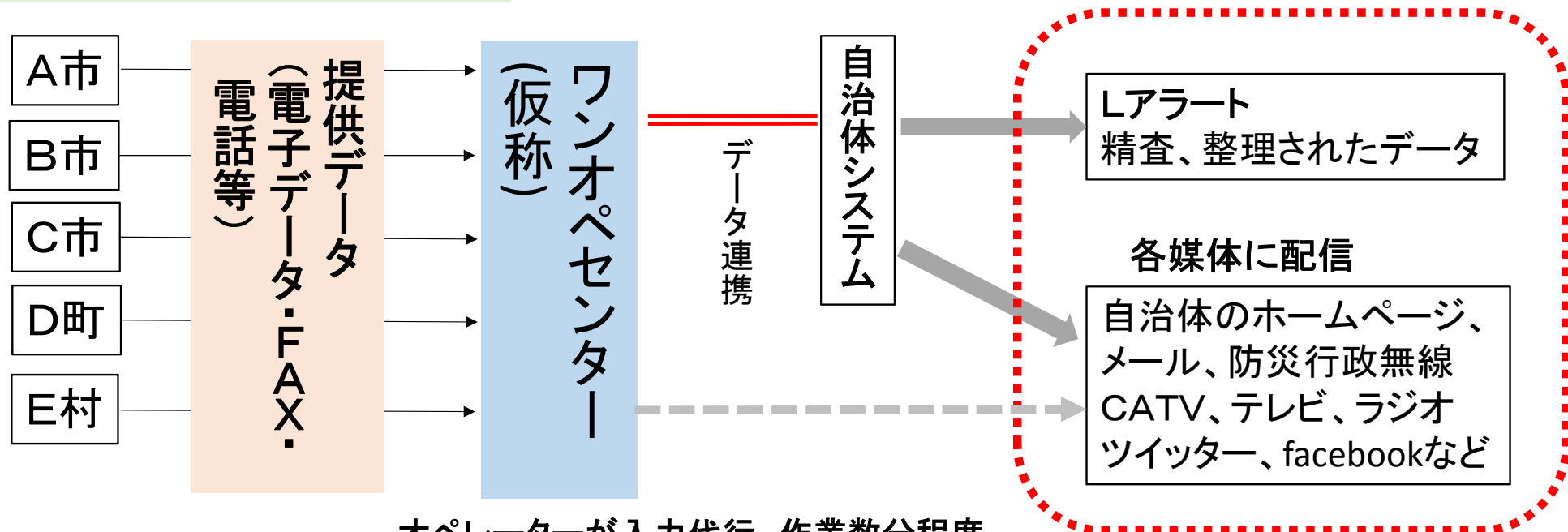


ワンストップ・ワンオペレーション入力

- ・専門業者(CMID)の入力で迅速、正確、一斉に
- ・自治体の職員不足の解消
- ・位置情報、ライフラインなどの情報追加や平時の利用も

防災情報 発信・伝達手段の改善プラン～CMIDを活用した防災情報の一斉送信 ＜ワンストップ、ワンオペレーション入力＞

改善後のイメージ



オペレーターが入力代行、作業数分程度

自治体から提供されるデータをCMSに入力
・随時提供されるデータを精査・整理
・位置情報やライフライン、河川情報などデータの付加も
↓
Lアラート、各媒体に配信